

特別インタビュー



■脇飯選手は子どもの頃や学生時代から本を読むのが好きだったんですか？

「周りの人たちと比べても読書をするタイプではなかったと思います。プロに入って先輩たちがいろいろな本を読んでいるのを見て僕も読むようになりました。昔は何か目的があって本屋に行ったときでも、なんとなく他の本が気になったり目についたりするじゃないですか。今はスマートフォンを使うことが当たり前の時代なので、○○さんのオススメの本みたいな情報をSNSで見かけて興味を持つことが多いです」

■サッカー選手は遠征が多いので移動中や宿泊先で本を読むことが多いという話をよく聞きます。

「そうですね。飛行機移動でインターネットが使えない環境だったり、海外遠征で長期間滞在するときは空港の本屋さんで何か面白そうな本はないかなって探したりします」

■ジャンルとしてはどういった本が好きですか？

「僕は小説というよりはドキュメンタリーや人

物ものを読むことが多いです。興味がある人や知っている人の言葉・ストーリーが書かれている本ですね。最近だとフロンターレで一緒だったカオル(三笥薫・現日本代表)や同期のヒデ(守田英正・現日本代表)の本を読みました。あとは先輩のケンゴさん(中村憲剛)の本を読んだり。サッカー選手としてもリスペクトしている人たちがどういったことを考えながら生活しているのか。興味深いですよね。それが身近にいた人ならなおさらです」

■一緒にプレーしていたときに、こういうことを考えていたんだって思い返したりするんですか？

「そうです。あのときこんな風に考えていたからこうしたんだって物事がつながつたりします。本を読むことで何かを発見したいという思いがあるんです。さまざまな考えを知るのは1プレーヤーとしてだけではなく1人の人間としてもすごく勉強になります。だから、サッカー関連の本だけではなく、身体の使い

川崎フロンターレ
MF14

脇坂 泰斗

[わきざか・やすと]

「新しい発見や学びにつながる」

プロフィール

■1995年6月11日生まれ／神奈川県横浜市出身

柔らかい動きと繊細なボールタッチを駆使して狭いエリアでも前を向いて攻撃の起点となり、自らもゴール前に入り込みフィニッシュワークに絡む攻撃的 MF。昨シーズンはリーグ戦でキャリアハイとなる 9 得点を挙げ、3 年連続で J リーグベストイレブンを受賞した。名実ともにチームの中心的存在だ。今シーズンからはキャプテンに就任。背番号 14 が 2024 年のフロンターレを牽引する。

方、栄養学といった書籍にも興味があります」
■では脇坂選手のオススメの一冊を教えてください。

「『愛されて、勝つ川崎フロンターレ 365 日まちクラブ』の作り方』です。内容をざっくり説明すると、川崎フロンターレというサッカークラブの歴史と、長年にわたりクラブに関わってきた人たちの話です。僕もインタビューに出させていただきましたが、選手やコーチングスタッフだけではなく営業やプロモーションといった部署の人たちのインタビューも掲載されています」

■この一冊を読めば川崎フロンターレの歴史がわかるということですね。

「そうですね。川崎フロンターレの成り立ちや、そこで働く人たちのストーリーや一人ひとりの思いが詰まった一冊なので、ぜひ読んでほしいです。フロンターレに興味がある人はもちろんですが、プロスポーツの世界に興味がある方にもおすすめです。J リーグのクラブは企業の名

前ではなくて地域の名前が冠について、地元とより密接な関係があります。僕個人としても日本のプロサッカーはこうあってほしいと願っていますし、その地域の理念を体現しているのがフロンターレだと思っています。その歴史を遡りながら知ることができる一冊だと思います」

■では最後に、本を読むことで得られるものはなんでしょうか。

「読書の一番の魅力は『学び』だと思います。本を読み進めることでいろいろな物事を知ることができるのはもちろんですが、例えば知らない言葉が出てきたときにその表現をインプットして自分のものにできる。プロサッカー選手はプレーを言語化して伝えることも大切なので、自分が話をするときにこの表現方法がいいかな、それとも違ったニュアンスのほうが伝わるかなとか、そういったことを考えます。知識を深めることで自己表現を学ぶことができるのも読書の魅力だと思います」